

令和4年度
社会人基礎力白書
大学生の就業力向上のために



公益社団法人 **緑丘会**



国立大学法人 **小樽商科大学**

令和4年度 社会人基礎力白書発刊にあたって

公益社団法人 緑丘会

理事長 三浦 和哉

平素は当法人の活動にご理解、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

令和4年度もコロナ禍の継続により、学生はもとより企業・教育関係者の皆様にとっても何かと不自由な生活を強いられ、ご苦勞された年であったと拝察申し上げます。

さて、私どもは内閣府より公益社団法人移行認定を受け、平成24年4月1日付で、公益社団法人緑丘会として第2のスタートを切りました。

本年も、公益社団法人の行う公益目的事業として、国立大学法人小樽商科大学のキャリア教育開発部門と連携して、大学生の「社会人基礎力」養成及び「就業力」育成のために、令和4年度版「社会人基礎力白書」を刊行させていただきました。

数年来、新卒者の入社後3年以内の早期離職率が高まっていることが問題視されており、学生と企業の価値観のミスマッチの解消が急務とされております。

そのような中、学生の資質・能力に対する社会からの要請や、学生の多様化に伴う卒業後の職業生活などへの支援の必要性が高まっております。

因みに、文部科学省においては、大学などが教育課程の内外を通じて社会的・職業的自立に関する指導などに取り組む体制を整えることについて、平成22年2月に「大学設置基準」が改正されました。各大学が教育課程内外にわたり、大学生の「就業力」の育成などを目指す取り組みなどに対して総合的に支援することとしております。

これらの時代の流れを踏まえ、私ども公益社団法人緑丘会は、公益目的事業として、国立大学法人小樽商科大学が推進するキャリア開発教育および就職関連事業を支援して参りました。取り分け多くの学生が卒業後の人生において、豊かで充実した職業生活を送るための一助として「社会人基礎力白書」を刊行して参りました。

この「社会人基礎力白書」は、社会で活躍されている大学OB・OGの方が講師として登壇される「エバーグリーン講座」の前年度の講義内容をまとめたものです。

今年度の「エバーグリーン講座」はコロナ禍の継続もあり、オンラインでの聴講もありましたが、対面受講もかなり増えており活況が戻りつつあります。学生からは満足度の高い結果が出ており、学生の「社会人基礎力」養成に大いに役立つものとして確信しております。

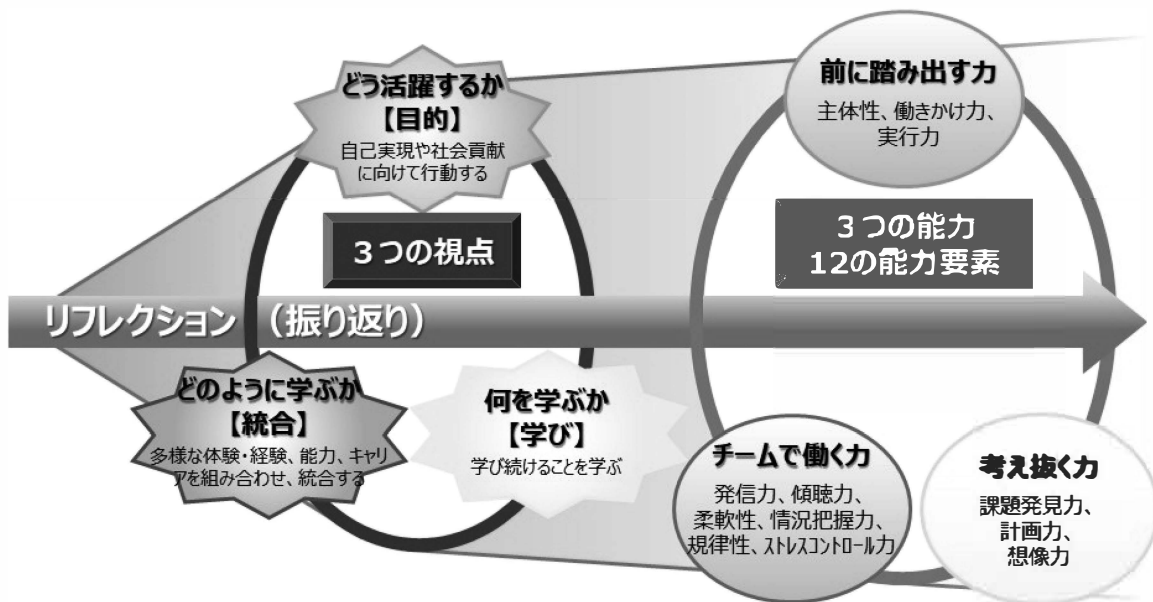
広く学生・企業・教育関係者の皆様にご高覧いただき、「社会人基礎力」の向上に役立てていただければ幸いに存じます。

人生100年 時代の 社会人 基礎力

「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年に提唱しました。

「人生100年時代」や「第四次産業革命」の下で、2006年に発表した「社会人基礎力」はむしろその重要性を増しており、有効ですが、「人生100年時代」ならではの切り口・視点が必要となっていました。

こうした状況を踏まえ、平成29年度に開催した「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」において、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力を「人生100年時代の社会人基礎力」と新たに定義しました。社会人基礎力の3つの能力/12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置づけられます。



(出典：経済産業省ホームページより)

「令和4年度 社会人基礎力白書」に寄せて

国立大学法人北海道国立大学機構 小樽商科大学商学部社会情報学科 教授
兼グローバル戦略推進センター教育支援部門 部門長
大津 晶

◎はじめに

公益社団法人緑丘会におかれましては、日頃より母校のキャリア教育ならびに現役学生の就職活動等にたいへん篤いご支援をいただいておりますこと、この場を借りて御礼を申し上げます。

緑丘会の全面的支援により開講している「エバーグリーン講座」は、「母校の現役学生のキャリア教育支援を通じた社会への公益還元」の一環であり、その内容をより広く学内外へ発信するとともに貴重な講義録資料としてアーカイブすることを目的として、「社会人基礎力白書」に掲載させていただいております。

令和5年の春を迎え、新型コロナウイルス感染症による社会の混乱もようやく出口が見えてきたところです。本学の授業については令和4年度中に徐々に対面授業を正常化させ、200名を超える学生が受講するエバーグリーン講座についても、講師や実行委員のみなさまのご理解とご協力により原則対面授業を実現することができました。加えて過去2年間に蓄積したノウハウを継承し、オンライン配信や録画アーカイブの活用を併用して進化した授業形態を構築することができました。この場をお借りしてこの間の関係各位のお力添えに御礼を申し上げます。

今年度の白書には令和3年度（2021年度）に開講されたエバーグリーン講座の講義録を編集して掲載いたします。各講義録は紙幅の制約からすべての講義内容を掲載することができず、卒業後のキャリアや仕事の現場で得た普遍的な知見に焦点を絞り、現役時代のエピソードや受講生との質疑などは残念ながら割愛せざるを得ませんでした。全文は講義の様様とともに本学ウェブサイトのエバーグリーン講座紹介ページ (<https://www.otaru-uc.ac.jp/evergreen/>) にて公開しております。また平成29年に編集したエバーグリーン講座30周年記念誌についても同サイトにおいて広く公開しておりますので、こちらもご覧いただければなお幸いです。

◎山崎 加容子氏（平成18年商学部経済学科卒／INSCAPE 代表・インテリアデザイナー）

「転勤族を選んだ私の変遷」

○モノづくりとインテリアの世界に引かれて

「転勤族を選んだ女性の变遷」と題してお話します。変遷というくらいですから、商大を卒業してから、ピンチを含めていろいろなことがありました。いまは熊本で自分の事業を動かしています。

私は札幌西高校から小樽商大に第一志望で入りました。ゼミは国際経済学で、同期の学友の何人かとはいまも連絡を取り合う仲です。アルバイトもいろいろしましたが、物販や接客のバイトが多かったです。

就活はメーカー志望。モノづくりの仕事に関わりたと思いました。母がカーテンやベッドカバーなど、いろいろな手仕事が好きだったという影響もあるかもしれません。転勤もある総合職を望みました。さらに、漠然とですが、チャンスがあればいつか自分でビジネスをしてみたいとも思っていました。私の父は美容師で、祖父は山の林業家。勤め人の世界とは違っていたので、その影響かもしれません。

2006（平成18）年にTOTO株式会社に入社し、まず札幌営業所に配属になりました。勤務地は当初どこでも良かったのですが、そのころ父が病気になってしまって、札幌を離れたくないと思い、札幌を希望したのです。そこでいわゆるルート営業の新人になります。TOTOの住宅機器を、住宅メーカーや工務店、設計事務所

などに使ってもらうために営業するわけです。住宅資材の商社・問屋さんなどもクライアントになります。

4年ほど経って仕事の全体像がかなりわかったころ、同期入社の人と結婚しました。彼は盛岡勤務、私は札幌勤務だったので、私が盛岡に引っ越しました。彼はいわゆる転勤族ですから、このときから私は「転勤族の妻」になりました。

専業主婦でいるつもりはなかったので、良い機会だと思って、前からやってみたかったインテリアコーディネーターの勉強をすることにしました。仙台の「町田ひろ子インテリアコーディネーターアカデミー」という、社会人対象の専門学校に通います。1年間基礎から学びましたが、ロンドンでの研修もあって、インテリアの世界にますます目を開かれました。イギリスでいろいろ見たデザインやスタイルは、私を深く刺激してくれました。

そして盛岡の住宅会社に、営業アシスタント兼インテリアコーディネーターとして就職することができました。ログハウスなどを建てる会社です。ここがインテリアのプロフェッショナルとしての第一歩になります。ますます住宅やインテリアの仕事が好きになりました。でも1年も経たずに、夫がこんどは仙台に転勤になりました。仕方ありません。その会社は辞めなければなりません。

でも仙台では専門学校に通いましたから土地勘もあるし、人のつながりもありました。そこでフリーランスのインテリアコーディネーターとしてやってみることにしました。2013年からは、私が通ったインテリアコーディネーターアカデミーで講師の仕事もするようになります。

○自分のモノづくりをしたい！

インテリアコーディネーターの仕事をするにしても、社員と個人事業主（フリーランス）ではずいぶん違います。会社員では仕事はつねに向こうからやって来て、社内のチームで取り組みますが、フリーの場合は仕事を得ることからはじまります。そして物件ごとにいろんな会社とプロジェクトを組むことになります。一方でさまざまな意志決定は、フリーなら自分の責任でできますが、会社勤めではそうはいきません。収入も、不安定ではありますが、やった分だけ増えていきます。でも、社会保険の手続きなどは自分でやらなければなりませんし、確定申告が必要です。私は商大で会計の基礎を学んでいますから、そうしたことは苦ではありませんでした。また、フリーには失業保険もありません。

仙台では、先輩の女性が産休に入ってその分の仕事を引き継いだり、激務が続いてダウンしてしまいました。でも仕事としてはとても順調だったのです。

しかし、またあの「転勤」がやってきます。今度は、ずいぶん遠い九州の熊本でした。私は、夫の転勤のたびに「失業」してしまいます。個人事業主としてやっても、インテリアコーディネーターの仕事は、基本的にそのまちで成り立つものですから、遠くに行ってしまうのはまたゼロからの出発です。

これではダメだ。なんとかしよう。私は真剣にそう考えました。

下請けのポジションでは、どこに行っても問題は解決しません。どこに行っても自分で自分の仕事を作り出せる、自分ならではの事業をしてみたいと思いました。

熊本では、まずホームページを作って、インテリアコーディネーターである私を知ってもらうことから始めました。ブログもはじめました。「転勤妻インテリアコーディネーターの自邸模様替え」というタイトルです。

しかしなんということか、熊本市に引っ越して2週間後、あの熊本地震（最大震度7）に出くわしました。家の中はぐちゃぐちゃになり、棚やものにつぶされて、死ぬかもしれない、とほんとうに思いました。家も私も幸い大事はなかったのですが、片付けをしながら、どこか吹っ切れました。もうとにかく、思い切って自分がやりたいことをやってみよう、と。

では、何をするか？ 私は私の名刺の肩書きに、どんな言葉が載せられるのか？ 考えてみました。熊本の創業スクールにも通ってみました。じっくり考えた末に私は、オリジナルのカーテンを作って売りたいと思いました。カーテンは、多くの方が考えている以上に、部屋の印象を決める、インテリアの重要な要素です。